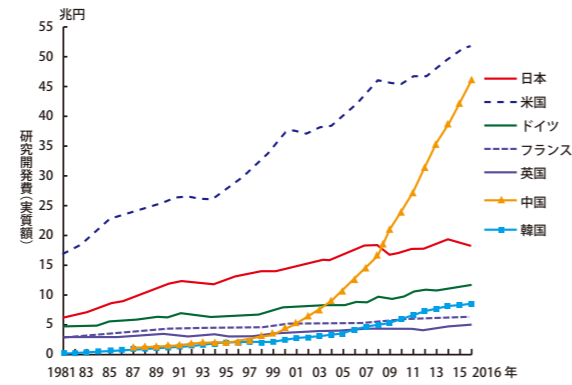


Q 自然史科学ってなに？

私たち人類は、過去もそしてこれからも、自然界の謎を解き明かそうとせずにはいられない存在です。

- 自然が破壊され、失われれば、医学の発達によって個人の寿命が延びても、私たちの暮らしは危機にさらされます。自然史とは、生物や海や山や土や岩など、私たちを取り囲む様々な事物の有様、およびその歴史のことです。
- 自然史科学とは、私たちのまわりの有様、言い換えれば私たちの暮らしの土台、を明らかにする基礎研究です。その成果は私たちがこの地球上で安心して生きてゆくための応用研究にいかされます。
- 自然史科学は自然科学の一分野です。近年、自然科学の研究者数、論文数、予算は減りつづけていて、このままだと日本の科学技術力は停滞してしまうかもしれません。

主要国における研究開発費総額の推移
出典：文部科学省科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2018」



Q 一般的な博物館との違いは？

日本には国立の博物館がありますが、ほとんどは歴史、芸術、民族などに関するものです。

- 東京には国立科学博物館がありますが、自然史・理工学を総合的に扱っています。自然史に特化し、欧米と同規模以上の研究体制が整った自然史博物館は、日本にはありません。
- 国立自然史博物館は、21世紀型自然史博物館として、ABSの国際ルールに則って、協調的に標本を収集します。また、最新の機器・手法により研究や分析が行われることで、多種多様な自然史情報がビッグデータとして整備・活用され、今までにない研究・展示が可能となります。

Q 国立自然史博物館ができれば日本も世界も変わる！

自然史研究における日本の存在感を高め、「生物多様性国家戦略」を推進する拠点となります。

- 自然史科学の人材育成拠点となって関連人材を輩出し、研究を加速し、地球環境の持続可能性の道を切り開きます。
- 国内の自然史博物館には、標本収蔵庫・設備・職員の不足など、運営上の課題が山積していますが、課題解決の共通システムをつくり、全国の自然史博物館の負担軽減やレベルアップをお手伝いします。
- ビッグデータ自然史科学を創出することで、自然史情報をグローバルに共有して、バイオ技術をはじめとした産業革新に貢献します。

国立沖縄自然史博物館構想の “To Do リスト 5”

- 1 琉球列島や東南アジアでフィールドステーション(分館)を展開して、自然史標本の収集・収蔵・研究、科学人材を育成することにより、世界の自然史研究を力強く牽引します。
- 2 人工知能(AI)を駆使してビッグデータ自然史科学を創設し、地球温暖化や資源の枯渇など地球規模の課題を解決する技術革新が生まれる拠点となります。
- 3 人間が本来的に持つ自然への感性や想像力を伸ばし、子どもたちのワクワクする好奇心を育てます。
- 4 博物館学芸員へのリカレント教育、インターネットなどを通じて誰でも共有・利用できるよう、各種研究データを一般に公開し、科学研究の効率化を図るオープンサイエンス、自然史教育のモデル形成、などによって日本全国の自然史博物館の活動を支援します。
- 5 沖縄観光の新たなマグネットコンテンツとして、ネイチャーツーリズムや教育旅行の拠点となり、沖縄経済に貢献します。

生物多様性の最前線からビッグデータ
自然史科学を世界に発信する！

国立 自然史 博物館

NATURAL HISTORY MUSEUM

国立自然史博物館とはなんでしょう？

自然史科学専門の博物館で、主に3つの役割があります。

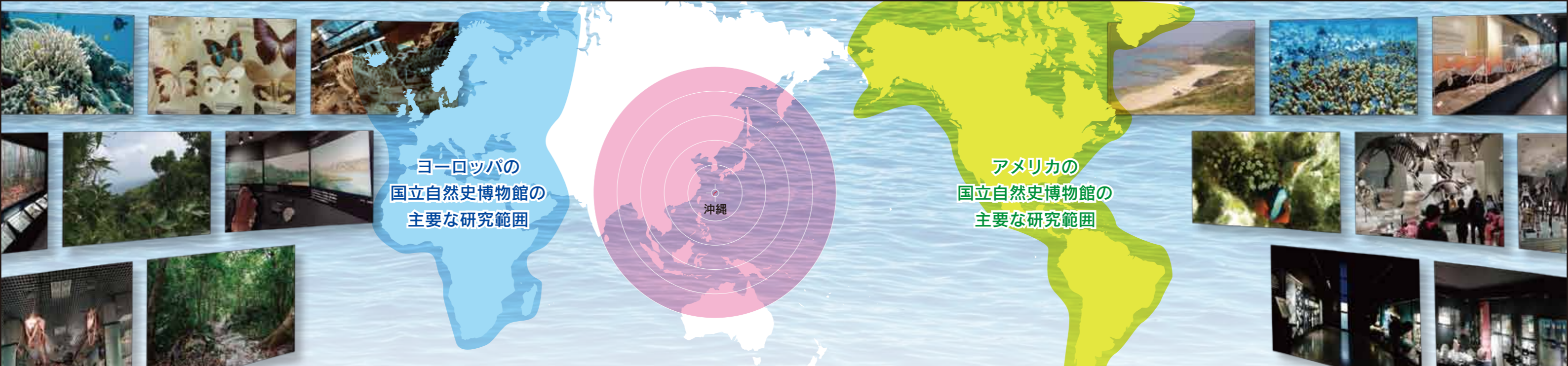


3つの役割を担うものが国立自然史博物館

なぜ、国立自然史博物館が必要なのでしょう？

英国、フランス、米国など欧米各国には国立の自然史博物館が存在し、自然史科学の国際的研究拠点となっています。しかし、日本を含めたアジアには、そのような拠点がなく、自然史科学研究が遅れています。自然史科学研究の成果は、気候変動や災害メカニズムの解明、新たな資源の発見、生物の機能を真似した技術(バイオミメティクス)など、人類の存続・発展のために多大な貢献を果たします。

沖縄県に国立自然史博物館をつくろう！



ヨーロッパの
国立自然史博物館の
主要な研究範囲

アメリカの
国立自然史博物館の
主要な研究範囲

沖縄

東南アジアは自然史科学の国際的研究拠点の空白地帯

🔍 国立自然史博物館をなぜ沖縄につくるべきなのでしょう？

東・東南アジアは、開発や自然破壊が急速に進行しているため、自然環境保全のためには、本格的な自然史研究を進めなければなりません。沖縄はそのために最適の立地です。

Check 生物多様性の最前線

- 沖縄県が位置する琉球列島は、世界的にみても生物多様性がとても高い地域です。このような生物多様性のどまんなかにある国立自然史博物館は先進国にはみられません。
- 琉球列島は研究対象が広大で、自然史の調査研究は十分だとは言えず、国立自然史博物館を拠点に、自然史研究をさらに推進する必要があります。
- フィールドステーション(分館)を展開することで、身近な自然環境から効率的に標本採集できます。また、琉球列島や東南アジアの新規標本を沖縄で研究できるようになれば、アジアの生物多様性の解明が加速されます。
- 世界自然遺産候補の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」のビジターセンターともなり、来訪者に臨場感のある自然史体験を提供できます。

Check 地理的優位性(沖縄はアジアの中心)

- アジアの主要都市が飛行機で数時間の圏内にあります。また、那覇空港では全長2,700mの第2滑走路が2020年3月に供用を開始する予定で、空路を中心にアクセス性が高い地域です。
- このため、アジアにおける自然史研究のハブになり、海外の研究者と協力しながら、生物多様性の保全、持続可能な開発目標(SDGs)、自然が我々の健全で幸福な生活のよりどころを提供し続けるようにしつつ経済成長および開発を促進していくグリーン成長、遺伝子資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分(ABS)などに貢献できます。

Check 標本を災害や高湿度からまもれ！

- 沖縄県は本土とは異なるプレートの上であり、近い将来の発生が確実視される「南海トラフ地震」や「首都直下地震」の被害の影響をほとんど受けないという利点があります。
- このため、全国の自然史標本の災害バックアップ拠点として適しています。
- 高温多湿環境での標本収蔵や植物防疫の技術を実用化し、同じような生態的・気候的条件の東南アジアにモデルとして提示し、国際貢献することができます。

🔍 国立自然史博物館は沖縄に役立ちます。

国立自然史博物館の効果は全国、さらには世界に及びますが、沖縄に立地すれば、県民が誇る財産になるでしょう。

- 沖縄を訪れる観光客を引きつける魅力的な施設になり、観光目的の多様化、滞在日数の長期化、観光消費の増加に寄与します。
- 教育旅行を受け入れ、博物館からフィールドステーションなどへ誘導することで、地域活性化が期待できます。
- 沖縄がまだ弱いインバウンド修学旅行への起爆剤になります。
- ビッグデータ自然史科学、バイオミメティクスなどの技術革新から生み出される起業で地域が若返ります。
- 県内外の研究機関と様々な分野で連携し、研究成果を広く還元します。
- 植物防疫、標本の管理・修復に関連するビジネスも県内に集積されます。
- 国立自然史博物館が拠点となって琉球列島の自然史が解明され、沖縄県の生物多様性が効果的に保全されることに役立ちます。

🔍 国立自然史博物館はこどもたちの未来、県民の未来をつなぎます。

沖縄県民は、自然を敬い、その恵みを利用するなかで自然に関する民俗知識を磨いてきましたが、シマクトウバ(琉球諸語)同様、こうした宝はいま失われようとしています。

- 沖縄のこどもたちの理科への興味が高まり、知的好奇心や想像力が育まれます。自然史研究を志す後継者も生まれ、人材育成の拠点となります。
- シチズンサイエンスなど市民参加が促され、プロ・アマの垣根を超えて自然史研究の裾野を広げることができます。また、県民の自然環境意識が高まり、地球環境の持続可能性を支えるSDGsの実践が定着していきます。
- 沖縄の自然環境の大切さを再確認する拠点となり、「ウマンチュの宝をまもろう」という意識が育ち、同時に郷土愛を深めることができます。

